

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	安芸高田市立愛郷小学校	校長	新本 信之	担当者名	佐々木 祐司
-----	-------------	----	-------	------	--------

取組事例名 『主体的な児童会活動』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

○学校教育目標を達成するための重点目標に「自ら考え行動できる子」の育成を掲げている。そこで育てたい資質・能力は「主体性」と「課題発見・解決力」である。

取組のねらい

○児童の主体的な活動の場としての児童会活動（委員会活動）を通して，学校の課題に自ら気づき，課題を解決していくための方法や手段を考え，課題解決しようとする意欲・態度を育成する。

取組の具体的内容

○開校から2年，昨年度の取組を深化させるため，新型コロナウイルス感染症対策の中で，できることを工夫しながら児童会活動に取り組んでいった。

○取組の具体的内容

①月ごとの生活目標の設定と振り返り
児童会執行部，各委員会が生活目標を分担して設定した。生活目標は，執行部や各委員会の常時活動にあうように設定し，取組を具体的に決めていった。月末には各学級の取組の振り返りを行い，全校に知らせていった。さらに，執行部が毎日，生活目標等の振り返りを放送で行い，課題解決に向けたアドバイス等を発信していった。

②読み聞かせの取組
図書委員会では，これまで各教室に行き，読み聞かせや本の紹介を行っていたが，今年度は新型コロナウイルス感染症対策の中で，動画を撮り，各教室で視聴した。

取組の創意工夫

○取組の充実に向けて，児童会と指導者が一緒に考えを出し合い検討することが，主体的に活動することにつながった。

○委員会活動では，日常的な学校の課題について考え，気付かせる場面をつくり，生活目標の設定等につなげた。

○一斉下校時に生活目標達成のための課題やできていることの肯定的な評価を児童会執行部から全校へ放送で伝えていった。

取組の成果と課題

○成果
開校から2年，新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ，できることを考え工夫しながら取組を進めようとする児童会活動になった。児童の生活アンケートの中から，「課題解決」に関する項目では，肯定的な評価は86.5%となり，昨年度より6.2%上昇した。「自分から進んで役に立つ活動ができます」という項目では，82.8%となっている。このような結果から，「課題発見・解決力」の資質・能力の育成は，一定の成果をおさめていると考える。

●課題

児童会執行部，管理職，生徒指導主事等を中心に，校則の見直しの協議を進めている。これについては，中学校区での小・小連携，小・中連携も行い，共通性と継続性のある校則にしようとしている。児童の将来的な社会参画の意識を育てるためにも課題を見つけさせ，解決していくという点においても校則の見直しを加速的に進めていく必要がある。